課題研究で取り組む、地元企業のWeb制作

―地域連携と高大連携で目指した総合力の育成―

岐阜県 関市立関商工高等学校　教諭　猿見田隆宏

Ⅰ　はじめに

課題研究の授業で、地元企業のホームページ制作に取り組み、平成２０年度で５年目を迎える。平成１９年度はアジャイル開発の手法を取り入れることにより、過去に納品したホームページの更新を請け負う体制もとることができた。また年度末には、納品したホームページを社内の全体会議の場で発表して欲しいとの要請をいただき、担当した生徒にとっては忘れられない体験となった。これまでに取り組んだのべ３５社に、今年度取り組み予定の企業を加えると、４０社以上の地元企業に協力をいただき、約２００名の情報処理科生徒が携わることになる。

Ⅱ　取り組みの流れ（概要）

１．地元青年会議所を介し、クライアント企業を募集。（６月）

２．取材・制作後、試作品を作品紹介Webにアップし、メールで意見をいただく。（７月～１２月）

３．以降、取材・制作・試作品のアップロード・メールによるフィードバックを繰り返す。

４．完成品（CD）と取扱説明書を納品し、クライアント企業を招待して、発表会を実施。（１月）

Ⅲ　この取り組みの位置づけと身につけさせたい力

１．教育課程における位置づけ

１・２年生では情報処理や商業に関する知識や技術の基礎を学習し、それらを３年生における課題研究の授業において、生徒たち自身が企業のホームページを制作し納品するという活動を通して、学校外での実際の場面で活用し、生徒自身が自らを試す機会とする。地域社会や近隣の大学の教育力を活用すると共に、普段学校では学べない多くのことを、年間を通じた課題解決学習（プロジェクト学習）の中で体験し、将来自ら考え行動できる社会人として必要な総合力を養うことをねらいとし、インターンシップとしても位置づけている。

２．この取り組みによって身に付けさせたい力

（１）企画力

（２）コミュニケーション能力

（３）プレゼンテーション能力

（４）総合力（問題解決能力）

Ⅳ　おわりに

生徒を取り巻く日常は、あらゆる場面を通じて周囲にお膳立てしてもらうことが当たり前になっていることが多いように思われる。最大の教育効果を上げるために、お膳立て（準備）をすることは我々教員の仕事であるが、生徒自身が目指すべき結果を認識し、その形を実現するために仲間と協力し、あらゆる方法を考え、結果を出すために継続的に取り組む、そんな生徒の真剣な姿を目にする場面を設定できないか、というところからこの取り組みは始まっている。

卒業後、約半数近い生徒が就職をしていく現状から、地元の企業や大学の教育力を十分に活用した血の通ったビジネス教育の必要性は否めない。まだまだ多くの課題を残した取り組みではあるが、キャリア教育における授業モデルのひとつとしての完成を目指し、今後さらに発展させてゆきたい。